



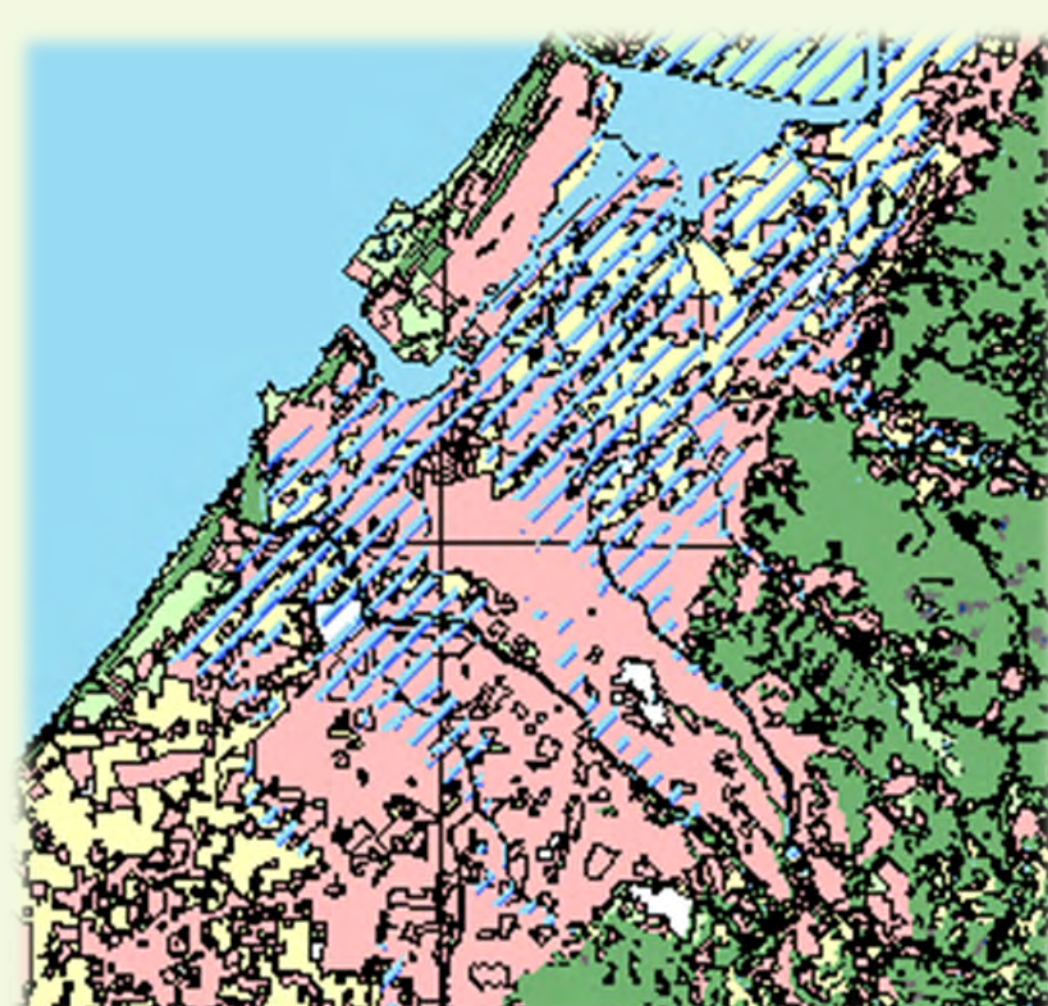
生態系の恵みを活かした豊かな社会づくりを目指しています。

主な研究テーマ：

生態系を活用した防災や地域活性化（グリーンインフラ）



多様な機能をもつ都市の緑
(景観、大気の浄化、日陰、健康 etc.)



地図による課題把握
(例:GISによる災害リスク評価)

グリーンインフラ (Green Infrastructure)

とは、生態系を重要な社会基盤とみなし、社会経済に寄与し、生活に潤いを与える持続可能なインフラとして、緑や自然の力を活用するための考え方と技術です。

自然環境の再生と地域資源の活用



生態調査と餌場再生



地域プロジェクト

能登半島は、佐渡島とともにトキ（学名：ニッポニア ニッポン）の国内最後の生息地です。トキをシンボルとした自然や地域の再生、地域資源の活用など、環境を守り、地域も潤う「環境と経済の好循環」を目指します。

能登の復興支援：里山里海の暮らしと風景の再生



能登半島のグリーンインフラ
復興を考える研究会

能登の魅力を守り、「創造的復興」を実現するため、能登の里山里海や自然を活かした防災やまちづくりの研究と実践を進めています。産学官民80名以上の仲間とともに、災害に強く、自然豊かな能登を守り伝えていくための活動を、今後も進めていきます。

【お問合せ】 上野裕介（石川県立大学 准教授） e-mail: uenoyu@ishikawa-pu.ac.jp
(能登GIHAS 生物多様性 専門家WG / NPO法人いしかわ生物多様性ネットワーク 理事長)

教員略歴：2017年～ 石川県立大学 生物資源環境学部

2012年～16年 国土交通省 国土技術政策総合研究所, 2009年～12年 新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター





能登のトキ放鳥に向けた研究と実践

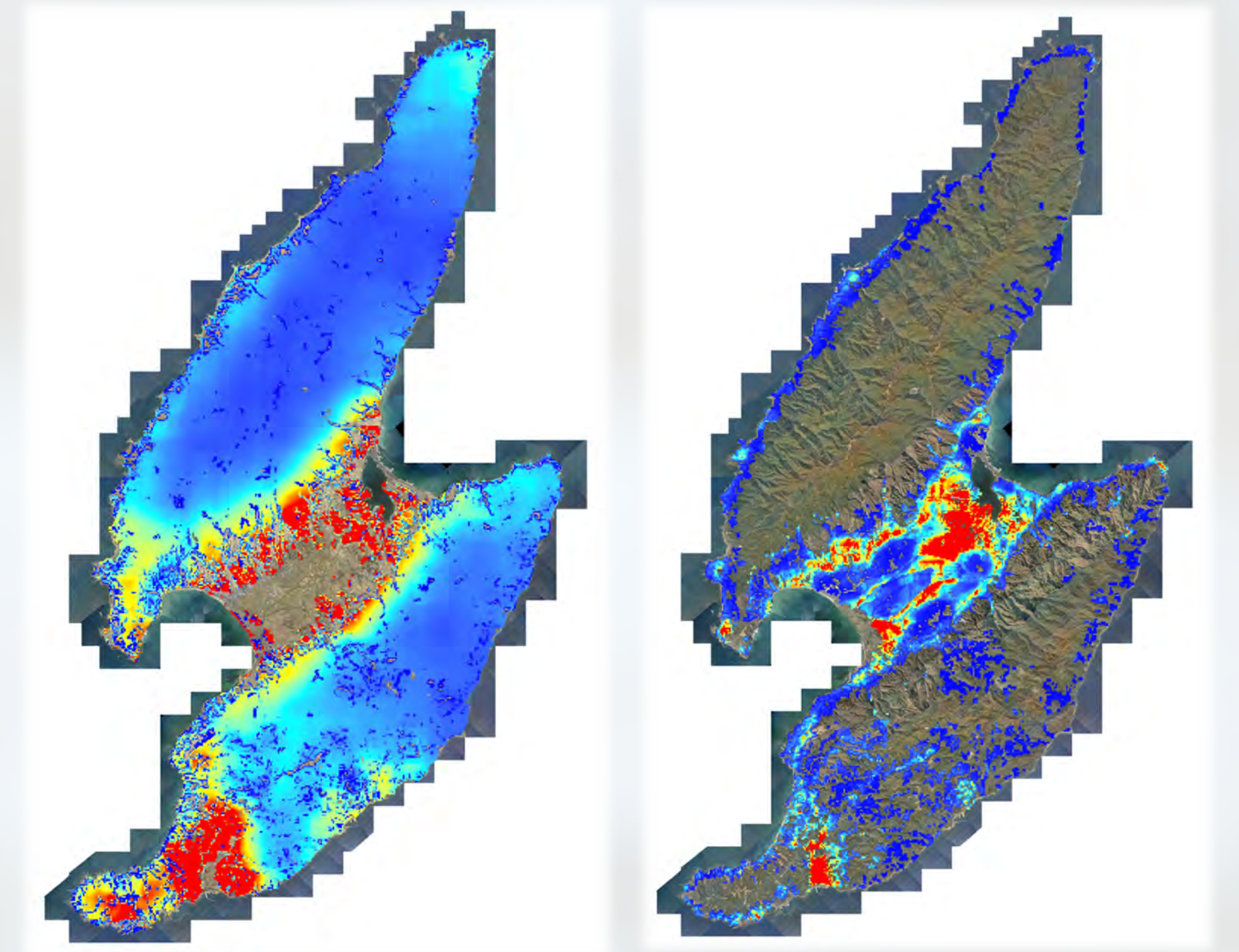
—トキがくらせる里山を、どうつくるか?—

【先進地/佐渡島】野生復帰の“現場知”を能登に活かす

佐渡では、トキの野生復帰に長年取り組んでいます。

本研究室には、その現場に関わってきたメンバーが在籍しており、能登での取組みを応援しています。

現在、佐渡島でトキ野生復帰を支えた知恵や仕組みを取材し、能登復興に活かす研究を進めています。

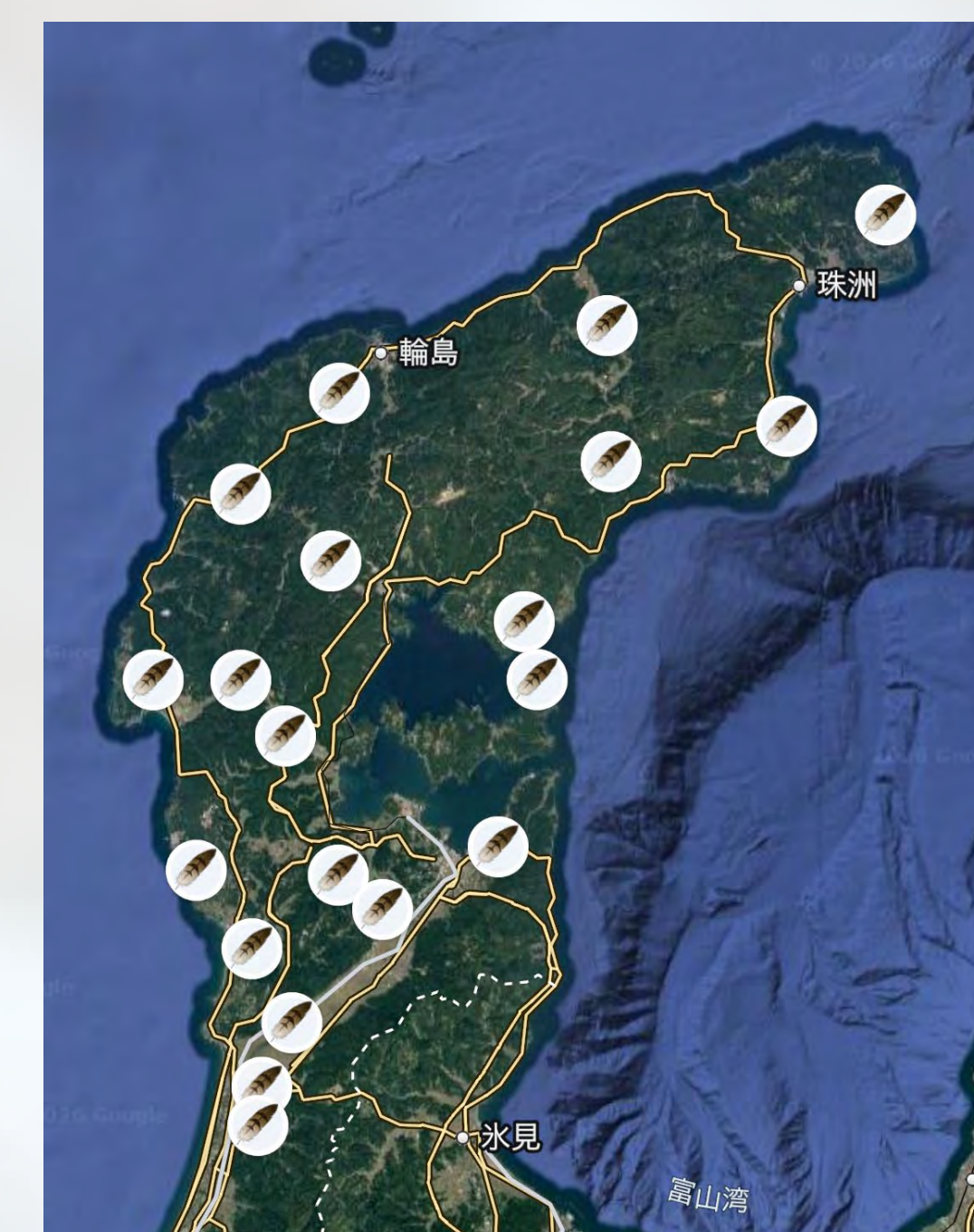


佐渡時代にAIで予測した
営巣・餌場の適地（上野）

【環境調査】能登の田んぼの現状は？ 科学データを蓄積

トキの餌となる水田の生物を、地震前から調べています。

- ① 地震や豪雨の影響で、水が張れず、生きものが減ってしまった田んぼが多い
 - ② 能登の水田内にはドジョウはほとんどおらず、用水にも限られる
- どこを守り、どこから再生するか？



調査地



トラップ設置の様子



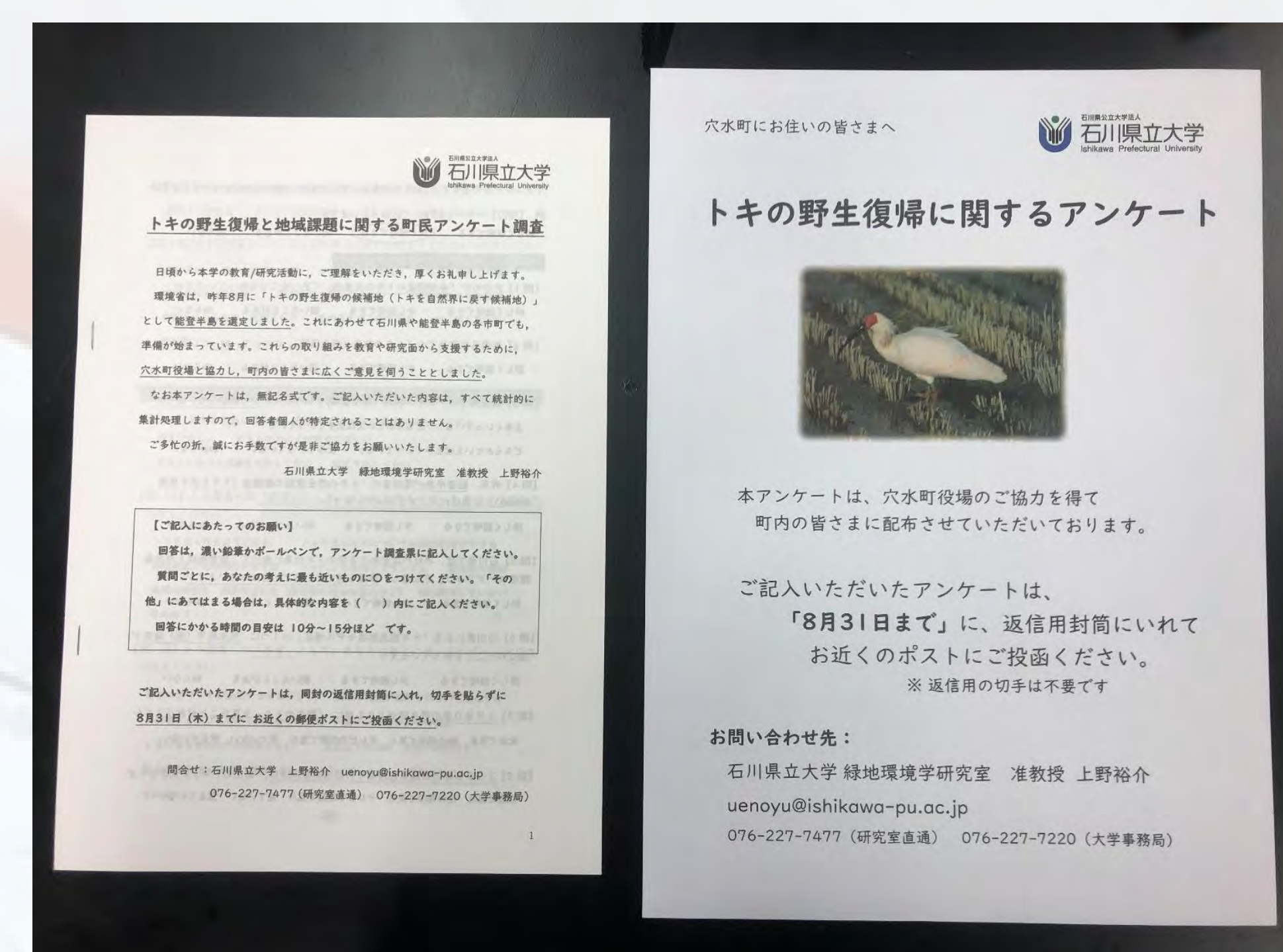
捕獲されたドジョウ

トキの定着に向け、科学データと専門技術で支えています。

【社会調査】トキ放鳥は、地域の思い・理解から始まる

トキ野生復帰は、自然だけの問題ではありません。

私たちは、能登最後のトキ「能里」が捕獲された穴水町で住民アンケート調査を実施し、トキ放鳥への期待と不安の声を集めました。多くの期待がある一方、農業への負担を心配する声もあります。



穴水町で実施した全戸アンケート

私たちの研究室では、今後もトキを能登の創造的復興のシンボルとして、科学データと地域の声を、トキが暮らせる環境づくりに活かしていきます



石川県立大学 環境科学科 緑地環境学研究室

『さとやま応援隊』 県立大生と取り組む里山管理



さとやま応援隊は、石川県立大学の学生と教員が、里山の自然を守りながら、地域の人たちと一緒に活動しています。生き物調査や環境づくりを通して、自然と人が共に生きる未来と、能登の復興につながる取組を行っています。

ふるさとの風景再生（珠洲市真浦）

棚田あとの草刈りや植栽、野生動物の調査



「のとトキ応援団」の設立

トキを応援するコミュニティの創出



生き物観察会 と ビオトープ整備

子どもたちや地元の方と身近な生き物を観察



竹林の整備 と 竹材の活用

間伐やたけのこ掘り、竹灯ろうまつり



能登のお祭りのお手伝い

人手不足から縮小した伝統的な祭りの復活



環境教育 や 普及啓発

環境教材の作成やイベント出展





石川県立大学 緑地環境学研究室



さとやま応援隊

さとやま応援隊は、石川県立大学の学生と教員が、里山の自然を守りながら、地域の人たちと一緒に活動しています。生き物調査や環境づくりを通して、自然と人が共に生きる未来と、能登の復興につながる取組を行っています。

